

クリストフ・ソーターの

「ビーンヴェニユ・アン・スイス」



両親の来日

私が日本に来てもう少しで3年になりますが、両親はまだ日本に来たことがなかったので、今回やっと来日することになり、私はとても楽しみでした。日本の桜は世界中で有名で春に訪れるのが一番良い時期だとスイスでも言われ、去年からこの旅を準備していた両親が3月30日に成田空港に到着しました。東京では早朝の賑やかな築地市場を楽しんだり、遊覧船で隅田川を巡航したり、日光を見学したり、予定の詰まった2日間を過ごし、4月3日の夜に津山駅に着きました。

長旅と時差ぼけによる疲労の色も見せなく、直接、晩御飯を食べに行き、うどんを頂きました。スイスでは箸の使い方はもとより、ずるずると音を出すことも出来ないはずなので、まずそれを教えるようにしたら、箸はもう結構慣れていました。ところが、ずるずるという音はやはり一生懸命音を出そうとしても、ヨーロッパでは失礼にあたるので不快に感じてなかなか出来ませんでした。

食事してから私のアパートに帰り、両親は和室に落ち着きました。日本で逢えて嬉しくてしょうがないので、疲れも忘れて、夜中まで長々とおしゃべりしました。両親は始めて布団に寝るので、私は少し心配していましたが、翌日の朝に2人ともとても元気で「良く眠れたよ」と言って、安心しました。

金曜日は姫路市へ向って、日本で最も美しいお城のうちの1つを見に行きました。お城の前にある広場に食物や飲料などを売っている屋台が並んでいたの、着いて早々食べるのが大好きな私の両親は「たこ焼き、焼きそば、焼肉、肉まん、お餅、ぜんざいなど」様々な料理を頂きました。全体的に嫌いな物はなかったけど、特に好きだったのは焼きそばと焼肉でした。

良い天気と満開の桜のおかげで、お城と周りの庭園は実に素晴らしい風景でした。津山に帰った頃少し疲れていましたが、とても満足してくれていた様子でした。



土曜日は2年前から私が生活する津山市を見せたかったので、まずは衆楽園に行きました。そこでは庭園を見ながら抹茶をいただき、あまり苦味に慣れていない私の両親は無理をしながらでも飲んでいました。次にはジャスコでショッピングし、両親は百円ショップを気に入って、1時間ぐらい歩き回りました。スイスにはない物を探したり、お土産を買ったりし、晩御飯は食べ放題のすき焼きに行き、両親は「日本にきてから最も美味しい食事だ」と話していました。味だけではなく、スイスでは食べ物が異常に高いので、値段の安さにも驚きでした。

その後は私の奥さんの実家に寄り、奥さんのお母さんが飾ったひな人形を両親に見せて、ひな祭りを説明してもらいました。そうすると、こういう伝統的な祭りはスイスでありないので、日本では昔からの文化が続いていてとても良いと私の両親が言っていました。

日曜日は鏡野町の見学をしました。役場から奥津湖に寄って奥津温泉まで上がり、温泉に入りました。私の両親にとってはまた新しい体験で、入前にお風呂の基本的なルールを教え、30分ぐらいくつろぎました。お風呂からあがったら、2人ともリラックスができ、日本のお風呂は気持ちいいという感想でした。晩御飯は和食の店で和食コースを食べ、私のスイスの家族と日本の家族とみんなで津山市の鶴山公園へ夜桜を見に行きました。

4日目は分かれの日です。岡山駅まで送り、両親は2人で旅をする予定なので、新幹線に乗り広島へ向って行きました。2人の計画は宮島から本州を通り抜けて仙台松島湾まで行くつもりだそうです。

お母さん、お父さん、気をつけて旅を楽しんでくださいね。今回は岡山で逢って本当に嬉しかったので、また一緒に日本で旅をしましょうね。

最後に、旅行と言えば今月は「Bon Voyage ボン・ヴォアヤージュ」を覚えましょう。「良い旅を」の意味です。

また次回お会いしましょう。

